



鶴岡市議会議員〔無会派・産業建設常任委員会〕

田中ひろし 市政報告

 2015
AUG.

＜連絡先＞ 事務所 〒997-0036 山形県鶴岡市家中新町 13-35 メール：officefon@gmail.com
TEL 0235-22-0068 FAX 0235-22-0098
議会事務局 〒997-8601 山形県鶴岡市馬場町 9-25 鶴岡市役所 2階
TEL 0235-25-2111 FAX 0235-24-9071

今年6月、国会で改正公職選挙法が成立しました。来年夏の参議院選挙から適用され、18歳19歳あわせて約240万人が新たに有権者となります。若年層の政治参加は喫緊の課題と言えるでしょう。

そして、鶴岡には山形大学農学部や鶴岡高専など高等教育機関に通う18歳19歳が大勢います。彼らにもっと政治やまちづくりを身近に感じ、参加してほしい！そう思っていた時期に、NPO法人ドットジェイピーで行なっている「議員インターンシップ」の受け入れを打診されました。議員インターンシップとは「学生のための教育事業の一環としての職場体験」。大学生の長期休暇に合わせて春期（2～3月）と夏期（8～9月）の年2回実施されています。2ヶ月間で最低100時間（！）活動することが条件であり、議員側も大学生側も軽い気持ちでは参加できません。

「議員インターンシップ」の可能性！

議員インターンシップに参加した大学生の意識調査によれば、インターンシップ前と後では、政治に対してポジティブなイメージを持った人数が約2倍、議員に対しては約3倍に増加しているとのこと。「必ず選挙に行く」と回答した人数も2倍弱に増加しており、議員インターンシップを通して政治やまちづくりの現場に触れることが、若者と政治の距離を近づける効果は明らかです。

議員によって、その活動は実にさまざま。僕がお預かりするインターン生には、僕が地域を元気にするために行なっている活動と一緒に参加してもらおう中で、鶴岡の現状や課題を感じてほしいと思います。9月には鶴岡市議会定例会があるので、議会傍聴にも来てもらう予定です。僕自身も、若者の視点や意見から学び、発見することができることを楽しみにしています！

■黄金地区の防災訓練に参加！

8月5日、最高気温34℃と予想される中、黄金地区の防災訓練に参加させていただきました。今回の対象は青龍寺の50世帯、177人。平日の日中なので、現役世代の多くは不在。夏休みの小学生の姿もありました。

8:30、大雨警報が発令。土壌雨量指数基準を超過したため、住民は避難準備。隣組長が全世帯から安否確認カードを回収し、要支援者を把握。

9:00、土砂災害警戒情報が発表。避難勧告が発令。避難開始。避難所の開設開始。

住民が、一次避難場所から避難所であるコミセンに移動。避難者名簿記入の際「老眼鏡忘れた」と訴える人多数！避難所ではセキュリティも含め、避難者の出入りの把握が重要。最初に受付で、世帯ごとの名簿に記入してもらいます。コミセン大ホールに確保された居住スペースは隣組ごとに区切られています。地域外からの避難者も想定しています。避難所の秩序を保つには、なるべく日常のコミュニティーを生かすのが大切。あとで移動してもらうのは大変なので、最初から近所でまとまって配置します。コミセンの部屋を避難所としての様々な機能に割り当てます。救護スペースや、食料などの物資置き場も必須です。

今回の訓練は、台本通りに淡々と進められました。しかし災害時、地元住民も市職員もみんな冷静ではいられないはず。限られた人員でスムーズに避難所を開設するための訓練を、日頃から積んでおく重要性を痛感しました。



定例会報告

平成27年6月定例会を振り返ります。

なお、鶴岡市議会ホームページから、本会議の映像や会議録をご覧ください。

→ <http://www.city.tsuruoka.yamagata.jp/gikai/>

1. チャレンジデーについて

先日のチャレンジデーでは神奈川県伊勢原市に57%の参加率で勝利した。1年目に20.7%で千葉県木更津市に敗れたことを思うと素晴らしい進歩である。チャレンジデーはスポーツを切り口としたまちづくりのイベントであり、健康面に加えて、地域の活性化も目的として総合的な政策コンテストの意味合いもある。

鶴岡市民でなくとも、鶴岡市内で15分以上活動すればエントリー可能なルールになっている。羽黒山を訪れて15分以上石段を上る観光客にも参加を呼びかけるなど、参加型観光と組み合わせではどうか。

来年のチャレンジデーは天神祭と同日の5月25日である。パレードに参加したり、化け物に化けたり、クイズラリーに参加したりする人々がエントリーできる仕組みを作ってはどうか。この日を休日としている学校も多いため、対策を取らなければ昨年より激減する恐れもある。子育て推進や学校教育、障害者や高齢者の参加など、多方面からアプローチする必要がある。

◎教育部長の答弁

実施場所は鶴岡地域の割合が63%、他の地域は40～50%。企業や事業所、自治会、町内会などの団体や学校関係、保育園、老人クラブなど幅広い層が参加している。羽黒山の石段上りは、観光目的であっても15分以上の運動をすることになるため、報告をもらえばカウントできる。天神祭パレードや化け物への参加者からは事前に了解を受け、報告してもらえばカウントできるのではないか。

↓運動のアプローチも様々！



2. 自転車の交通ルールについて

6月の道路交通法改正は、自転車の交通ルールに厳しく適用されることになったのが特徴。日本では自転車専用レーンや自転車専用道路が全く未整備なので、交通安全意識を高め、交通ルールを周知徹底することが大切だ。市内で自転車に関係した事故の現状と、小・中学生の自転車ヘルメットの着用の現状を問う。

自転車と歩行者の事故は必ずしも減っていない。自転車が車両であることとその危険性に意識を高めていくよう、市民に交通ルールの指導、周知徹底が必要だ。

◎教育長の答弁

本市における交通事故の発生状況は、全国と同様に減少傾向にある。平成26年中の事故発生件数は過去10年で最低の約620件で、平成16年の約60%となっている。そのうち、自転車がかかわる事故発生件数については65件で交通事故全体の約1割程度。全国平均より低い。小・中学生がかかわる事故が11件で約17%、高校生がかかわるものは12件で約18%、その他は42件で約65%。本市の小・中学校で、日常生活の中でも自転車に乗るときはヘルメット着用を義務付けている小学校が35校中13校。3年前は、小学校40校中5校だった。自転車通学生のいる中学校10校のうち、通学時にヘルメットを着用することになっている中学校は7校で、今年度から段階的に着用する決まりにした中学校も1校。市PTA連合会や各単位PTAで積極的な検討を進めるように働きかけていきたい。

3. 鶴岡いきいきまちづくり事業

市民参画、市民主体のまちづくりが求められている昨今、事業の成果だけでなく、実施主体である市民の企画力・実現力の向上なども期待できる有益な制度である。応募状況と補助の実績は、審査の透明性を担保するために、公開プレゼンを導入し、採点結果や審査結果をオープンにしていこう考えは。また、実績について、報告会を実施したり、ホームページで発信していく考えは。

◎企画部長の答弁

鶴岡いきいきまちづくり事業は、地域の自然・文化・歴史など地域資源を活用して地域づくりに取り組もうとする団体を対象に財政的な支援を行う、ことを目的に創設された事業である。

平成 21 年度から平成 26 年度まで 6 年間で応募総数 184 件のうち 150 件を採択し、補助総額は 2,400 万円ほど。まちづくりに見識のある市民の方 4 名と市職員 1 名の 5 名での合議制で、波及性・独自性・具体性・発展性を基準に採点、審査した上で、市が決定する。公開での審査や採点結果の公表は難しい。今後は市のホームページなどを活用して、より多くの市民に情報が伝わるよう努めたい。

平成26年度 後期 鶴岡いきいきまちづくり事業 交付一覧

番号	応募団体 下部は代表者	事業名	事業概要	地域	交付額
1	探道文化館関係 会長 藤本 政之	小・中学生 第17回「探道春遊展」	◎市民館に展示用に設計 ◎審査員を招き、各員を導く。 ◎市民館に展示品を展示、公開。 ◎探道文化館。	鶴岡	166,000
2	「鶴岡町つるおか子ども方回かるた」制 市実行委員会 代表 加賀山 雅三	「鶴岡町つるおか子ども方回かるた」の制作・普及	◎子どもに伝えない「鶴岡町つるおか」を制作し、子ども方回かるたを制作・印刷する。 ◎出版費は市の補助で、学校の図書室にも設置して保存し、貸出も可能なようにする。 ◎かるたの読み札の裏には、方言の読み・標準語での読みをつけてわかりやすくする。 ◎鶴岡町つるおか子ども方回かるたも1部から印刷して、標準語にも対応し、かるた大会などを通して利用促進を図りたい。	鶴岡	200,000
3	探道教育工団.fest 代表 上山 剛司	鶴岡市立の探道文化館の創設と普及啓発プログラムの実践	◎探道文化館の創設のノウハウ調査を実施。 ◎小規模、中規模の探道と探道文化館の調査を実施。 ◎探道文化館の創設に向け、文化活動を中心とした市民参加型事業を行う。 ◎鶴岡町つるおか子ども方回かるたの普及啓発を行う。 ◎市民参加型事業の推進を図りたい。	鶴岡	180,000
4	WJBO ほかでスポーツクラブ 理事長 岡村 正博	たかびでカップ3on3大会 第10回記念バスケットボールフェスティバル	◎第10回記念大会を開催し、各スポーツクラブ・スポーツチーム、バスケットボールクラブなどに参加者を呼び出し、大会を開催する。 ◎第10回記念大会を開催し、各スポーツクラブ・スポーツチーム、バスケットボールクラブなどに参加者を呼び出し、大会を開催する。	鶴岡	200,000
5	親子の風遊館 代表 丸山 聡	親子読りのまちづくり	◎文芸部連：鶴岡市で「親子読り」を実施して交流を促す。 ◎文芸部連：鶴岡市で「親子読り」を実施して交流を促す。 ◎文芸部連：鶴岡市で「親子読り」を実施して交流を促す。 ◎文芸部連：鶴岡市で「親子読り」を実施して交流を促す。	鶴岡	200,000

視察報告 ～兵庫県宝塚市

- 日時：2015年1月27日
- 訪問先：兵庫県宝塚市
- 視察テーマ：ミニたからづか
- 視察対応者：子ども未来部子ども家庭室 子ども家庭支援センター＝山田雄宗 所長
フレミラ宝塚 老人福祉センター・大型児童センター・老人クラブ連合会事務局＝藤井真人 館長
- 視察団：会派視察（無所属：田中宏1名）

2014 年は宝塚歌劇 100 年、宝塚市制 60 周年、手塚治虫記念館 20 周年という「トリプル周年」だった。

◆ミニたからづか

宝塚市立大型児童センター（鶴岡市でいえば中央児童館）を会場に、子ども達だけのまちを作り、遊びを通して様々な仕事を体験し、まちの仕組みを学ぶ取り組み。2 日間で、延べ千人以上が参加した。ピザ屋、警察、放送局、新聞社、市役所、銀行など多彩な「仕事」をして給料「ZUKA」を稼ぎ、買

つるおか市議会だより 平成27年6月定例会号

◆テーマ

1. チャレンジデーについて
 - (1) まちづくりへの効果について
 - (2) 参加型観光について
 - (3) 2016 年チャレンジデーについて
2. 自転車の交通ルールについて
3. いきいきまちづくり事業について



※
チャレンジデーと参加型観光を

議員 チャレンジデーの成果と

来年度の方針は。

教育部長 参加者数75,865人、参加率57%で目標を達成した。3年目を迎え、広く市民に理解され、多くの団体と幅広い年代が参加している。羽黒山の石段登りなどの観光目的でも参

加は可能である。来年度は天神祭と同日開催だが、パレードや化けもの等への参加だけでなく、見学者の参加が課題であり、クイズラリーなども検討する。

小中学生の自転車の乗り方は

議員 小中学生のヘルメット着用と交通安全指導の現状は。教育長 自転車に乗る時にヘルメット着用が義務の小学校は35校中13校で3年前より良くなっている。自転車通学者のいる中学校では10校中7校である。引き続きPTAを通して働きかけていく。6月の道交法改正をよい機会と捉え、安全指導を強化していききたい。



小学校での交通安全指導の様子

市民のまちづくり活動への支援は

議員 鶴岡いきいきまちづくり事業の実績は。審査過程を公開する考えは。優れた事業の成果を市民に共有してはどうか。

企画部長 6年間で延べ1500件に約2,400万円を交付してきた。審査は市民4人と市職員1人の合議制で、波及性・独自性・具体性・発展性を採点している。公開プレゼンなど審査過程の公開は考えていない。優れた活動事例を広く公表することは重要である。

質問の仕方が 変わりました

今定例会から一般質問の質問の仕方を選択制に変え、試行的に実施しました。

●「一括質問一括答弁」

質問項目すべてについて一括して質問し、一括して答弁を求める従来の方式

●「一問一答」

質問項目ごとに質問し、その都度答弁を求める方式

い物や食事などでZUKAを使う。「キッサニア」と似た仕組みだが、大人は安全確保のための見守りに徹し、公募した中高生が中心になって企画・運営しているのが素晴らしい！

◆宝塚市子ども条例

「宝塚市子ども条例」が2007年に制定され、2013年からは小中高生で「子ども委員会」を組織。また「子どもの権利サポート委員会」も設置されている。子ども議員26名が質問や要望を市当局に直接ぶつける「子ども議会」も14回を数える。鶴岡市でも市政に子どもの視点を生かすべく、「子ども議会」を導入すべきではないか。



◆手塚治虫記念館

手塚治虫は5歳から24歳までを宝塚市で過ごした。平成6年にオープンした記念館は初年度こそ約54万人が来館したものの、翌年度は約28万人、開館15年が経った21年度には約8万6千人と10万人を割った。海外からの誘客や「エヴァンゲリオン」とのコラボなど意欲的な企画で、24年度には再び10万人を超えた。藤沢周平記念館でも見習いたい。

視察報告 ～兵庫県篠山市

- 日時：2015年1月28日
- 訪問先：兵庫県篠山市
- 視察テーマ：「伝統的建造物群保存地区における街並み保存」
- 視察対応者：社会教育・文化財課 文化財係：成田雅俊 係長 議会事務局＝青野元彦 係長 篠山暮らし案内所＝大對信文 氏
- 視察団：会派視察（無所属：田中宏1名）

篠山市は人口約4万3千人。「丹波黒大豆」「丹波山の芋」「丹波栗」「丹波茶」など、食の分野で注目を集める里山地域。平成21年には丹波篠山城築城400年祭が行われた城下町でもある。

◆伝建地区のまちづくり

昭和50年と昭和62年にも町並み保存に取り組んだが、地域の合意形成ができず頓挫。平成11年から時間をかけて機運を高め、平成16年に伝建保存計画が国に選定された。平成17年度から25年度までの9

年間で、伝統的建造物の4割にあたる60箇所135棟の修理修景が行われた。しかし、毎年事業要望は10数件あるが、実施に至る事業は半分以下。修理の緊急性の高い建造物も多数あり、今後も継続的に事業を進める必要がある。町家にアート作品を展示するフェスティバルなど住民主導の町並み保存活動も増えている。立命館大学と自治会、企業、教委が連携した防災社会実験も行われた。平成26年、篠山城下町地区が都市景観大賞（都市空間部門）の大賞を受賞。鶴岡市シビックコア周辺地区との同時受賞となったのは奇縁！



◆移住定住促進

篠山市役所では「篠山に住もう帰ろう課」を設置し、移住定住促進に力を入れている。一般社団法人ノオトに委託している「篠山暮らし案内所」を訪ね、現状を伺った。平成22年に空き家バンクを設置し、これまでに26家族、68人が移住。空き家バンク登録物件への移住は11家族、29人。業者物件への移住は15家族、39人。新規就農での移住支援として、就農体験住宅の提供、体験農園施設の整備なども行なっている。

◆災害時相互応援協定

篠山市役所ロビーの目立つところに「友好市町の紹介」コーナーがあり、鶴岡市のガイドブックも置いてあった。鶴岡市と篠山市が「災害時相互応援協定」も結んでいる友好都市であることを市民に発信しているだろうか？日頃から市民レベルでも関係を築いていきたい。

【今号目次】

- ・議員インターンシップの可能性
- ・黄金地区防災訓練
- ・6月定例会一般質問報告
- ・視察報告～兵庫県宝塚市
- ・視察報告～兵庫県篠山市

ブログ ツイッター フェイスブック
BLOG / twitter / Facebook での情報発信も！

http://tanaka-tsuruoka.net/
http://twitter.com/tanaka_hiroshi
http://www.facebook.com/tanaka.officefon